



三中だより

中野区立第三中学校

第3号

平成29年6月20日発行

三生諸君！勉学は主体的に

校長 齊藤 久

先日、三中へ国語の教職を目指した大学生が教育実習に来ていました。実習生の大学の教授が三中へお見えになった時に、近代文学がご専門と伝えられたので、本校の芹澤光治良（せりざわこうじろう）文庫へご案内しました。大学の先生は書架をじっくりと眺めたあと「校長先生、芹澤光治良先生のご本がこのように全巻揃っているのは貴重な資料ですよ。」と感動をあらわにしていました。

「三生諸君！勉学は主体的に」これは文豪の芹澤光治良先生から送られた言葉です。三中を訪れたことがある方は、ご存じだと思いますが、第1校舎の東側にある芹澤光治良記念文庫の壁面にこの言葉は今でも飾ってあります。芹澤光治良先生は、昭和初期に活躍された世界に誇る文学者です。明治29年（1896年）静岡県沼津市に生まれ、大正8年（1919年）に東京帝国大学（現在の東大）に進学されました。大学を卒業後、農商務省に入省し結婚もされ、将来の活躍を約束された芹澤光治良先生でしたが、少年の頃からフランス文学に憧れ、フランスへ渡ることを夢見た芹澤光治良先生は、農商務省を退職し、大正14年（1925年）フランスのソルボンヌ大学へ留学しました。卒業論文「貨幣の数量と価値変動」を完成したところで肺炎に倒れ、スイスやフランスの高原療養所で療養生活を余儀なくされました。



この長い海外での生活体験を題材に「巴里（パリ）に死す」を発表しました。当時としては珍しいフランスやスイスを舞台にしたヨーロッパの香りの高い作品として、ブルジョア層を中心に絶賛されました。そして、昭和34年（1959年）フランス友好国際大賞が贈られました。さらに昭和40年（1965年）「人間の運命」に対し、芸術選奨文部大臣賞が贈られました。

芹澤光治良先生は、昭和初期から第三中学校の学区域である東中野にお住まいになっているご縁があり、平成8年にご家族からたくさんの本が寄贈され、芹澤光治良文庫が本校に開設される運びとなりました。「共存・共生」を教育理念に国際理解教育を推進している本校において、自身の夢を追い求めて、当時は船で長い日数をかけてしか行くことができなかったフランスへの留学を決意した芹澤光治良先生の行動力は、グローバル人材として必要な資質だと思います。

「三生諸君！勉学は自主的に」この言葉は来年度スタートする中野東中学校の生徒たちに引き継がれてほしいメッセージだと受け止めています。

今後の主な予定

7月 5日 (水) 修学旅行 (~7月7日)

7月 8日 (土) 学校公開

7月 6日 (木) 東京都学力調査 (対象2年)

7月11日 (火) 校外学習 (2年)

開校70周年記念第71回運動会

保健体育科 高橋 信幸

5月20日、開校70周年記念そして、三中として最後の運動会を開催しました。今年の一年生は3学級と1学級増え、縦割りにすることが難しいため競技形式は応援の部、各学年学級対抗の2つとなりました。また、応援パネルとして作成していたものも応援旗となり、実行委員がそれを持って入場という形に変更しました。今年は、三中伝統の応援パフォーマンスに地元東中野のD-studioというダンススクールから講師をお招きし、応援団にアドバイス、ダンスレッスンを行っていただきました。そのおかげで、当日のダンスバトルや応援パフォーマンスは大変盛り上がり、素晴らしいものとなりました。



運動会の練習は連休が明けた8日からでしたが、3年生が練習でも盛り上げ、下級生の手本として頑張っ



てくれたおかげでしっかり準備ができました。また、実行委員は連日遅くまで残り、学年練習についていろいろ意見を出し合い、協力する姿を見せていました。当日は、運動会としては最高の快晴のもと、生徒たちは練習の成果を存分に発揮し、全力を尽くす姿がありました。特に三年生の大ムカデは両クラスとも一度も転ばずに2周走りきるという快挙を成し遂げ、まさに三中の歴史に「軌跡」を残し、最高の運動会にふさわしいものとして、最後の運動会に華を添えてくれました。応援、協力してくださった保護者・PTAの役員の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。



生徒総会

5月2日（火）に生徒総会が行われ、平成29年度の生徒会本部役員会、各種委員会の年間活動方針が全校生徒に承認されました。壇上に立って年間活動方針、活動内容を説明する生徒会長、各種委員長は、三中の代表として責任を持って皆を引



張っていき、統合に向けて自分達の手で、これまで以上に最高の学校にして幕を閉じたいという強い気持ちが感じられる立派な姿を見せてくれました。今後の活躍が大いに期待できます。

三中の生徒総会では、全校生徒一人ひとりに挙手をしてもらい、承認を取っています。これは生徒一人ひとりに「自分たちの学校をよりよくしていく」生徒会活動へ自分も参加しているという意識を持ってもらい、自分達も生徒会の一員なのだという自覚を高めてもらいたいためです。

今回承認された年間活動方針に基づき、生徒会長、各種委員長を中心に全校生徒一人ひとりがこれからの生徒会活動に取り組み、これまでの三中70年間の伝統を受け継ぎながら昇華させ、統合新校へとその伝統をさらに繋いでいってくれることでしょう。

生徒会担当 渡邊 達也



セーフティ教室

生活指導主任 高橋 信幸

6月10日（土）、本校体育館においてセーフティ教室が行われました。今年のセーフティ教室は、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の奥田美幸さんに来ていただき、インターネット（SNS）に関するトラブルについて講演をしてもらいました。生徒達には「知らない間に犯罪者にならないために」「人生でだまされる回数を減らすために」という2つの演題で講演をしていただきました。始めに、不正アクセス禁止法という一度は聞いたことがある法律を例に話をしてくださいました。小中学生でも、友達から聞いたIDやパスワードを

使用してインターネットをしようするとこの法律に触れ、犯罪を犯してしまい逮捕・補導される小中学生がいると生徒たちに注意してくださいました。また、SNSの世界には、「なりすまし」と呼ばれる年齢や性別を偽って参加する人が増えてきているということを実例を挙げて講演してくださいました。ネット上で知り合った人との関係に気を付けるよう指導していただきました。今後、ますます利用機会が増え、身近になってくるIT機器の使用法について自分たちの安全を守るためにはどうしたらよいのか、また、被害にあわないだけでなく加害者・犯罪者にならないためにどうするべきかという当たり前でありながら、中々実践となると難しいことを再確認させていただいたセーフティ教室でした。生徒達もその後の感想で、使い方やフィルタリングや使用時間、SNSについて改めて考える良い機会になったという意見が多数あがりました。



セーフティ教室 第二部意見交換会

副校長 三保谷 浩貴

セーフティ教室終了後、本校芹澤文庫において、講師奥田さんを中心に、保護者・中野警察スクールサポーター・学校長・本校教員による意見交換会を行いました。奥田さんからはより具体的な詳しい事例が紹介され、バランスのとれた SNS の使用方法の大切さを改めて強調されていました。保護者からも、「ながらスマホに気を付ける」、「自分で善悪を判断させることが大切」、「子どもと一緒に話し合う情報をいただいたので、子どもと一緒に考えることが必要」等多くの意見や感想を発表していただきました。想像以上の SNS に潜む怖さや人ごとでないという危機感を参加者が共有し子どもに伝えていくこと、を共通理解して会を終えました。参加していただいた保護者の皆様、ありがとうございます。

オープンキャンパス

教務主任 鎌形 孝二

6月9日に今年度第一回目のオープンキャンパスが行われ、桃園第二小学校27名と白桜小学校18名の6年生児童が三中の授業や部活動を見学しました。小学生が興味関心を持って熱い視線を送る先には授業や部活動に励む三中生の姿があり、一生懸命に取り組む様子は中学生として立派なお手本となっていました。児童たちは三中生の授業や部活動の様子を間近で見ることができたようで、満足したとても良い表情で帰って行きました。

第二回目は9月28日に行われます。ぜひその時にも三中生の素晴らしい姿を小学生に見せてほしいと思います。



食育授業

栄養教諭 二重作 友美

5月下旬に、1年生家庭科において家庭科教諭と栄養教諭で食育の授業を実施しました。「食品と栄養素」について学習しました。6つの基礎食品群の分類と働き、目安量を学んだあと、ペア学習で、給食の食材を6つの基礎食品群に分けました。食材写真のミニカードを使って、楽しく意見を出し合いながら全問正解を目指しました。給食はバランスよく6群に分かれていることが分かりました。また、スポーツ選手の食事の写真を見て、特別違う料理を食べているわけではなく、給食と同じで6群全部が入っていることが分かりました。バランスの良さはしっかり食べてこそ成り立ちます。まずは給食当番が盛り残しなく上手に配膳すること、次にそれぞれ個人が好き嫌いなくしっかり食べることが大切です。家庭科で学んだことを、日常の食生活で活かしてほしいと思います。

